

令和3年3月5日

京口門だより No.89

3月に入っても寒さがなかなか緩みません。暖かい日もあり梅の花はよく目につきます。下旬には桜も咲き始めることでしょう。新型コロナウイルス感染症は変異株の新たな流行が心配になります。「しろしろと畠の中の梅一木」(阿波野青畝)

最近TVで東洋医学の特集番組をやっておりましたが、漢方薬にしても鍼灸にしても、あれに効いたこれに効くと、今ふうの人気投票的な内容で、なにか健康食品の宣伝のような内容でした。

鍼灸でいうツボ(経穴)には、ある症状や病気に特異的に効果のあるツボもありますが、ツボは単独であちこちにあるものではなく、経絡(けいらく)という流れの上に存在しているものです。古代中国の医書には人体には十四の経絡(流れ)があることが記されていて、その上におおよそ365の経穴があるとあり、多くの経穴にはその存在の意味があることも記されています。

鍼灸治療ではこの多くのツボが並んでいる経絡の状態を診断して、どの経絡が病み、どの経絡が健康かを区別し、病んでいる経絡を健康な状態にもどしてゆくためには、どのツボを選んで治療するかを決めます。ですから鍼灸治療では適当なツボを選んで治療するのではなく、その症状の改善にどの経絡のどのツボを選ぶかが大切な診断のもとになります。たとえば、胃腸の状態が悪い場合

でも、食べ過ぎや変わったものを食して不調か、あるいは何か強いストレスで胃腸が不調になったかで、あるいは他の病気の影響で胃腸の不調をきたしたのかで、治療するツボは違ってきます。脈診や舌診や腹診によって診断をしてゆきます。

鍼灸治療でも漢方治療でも、現代の医学のように身体の中のどこが悪いのか絞って絞って見つけるというのではなく、身体全体を見わたしながら、どの部分が不健康で、どの部分は健康なままであるのかを見極めながら、不健康になった部分を健康な状態にもどしてゆこうという方針で治療をします。

咳ひとつとっても現代医学では鎮咳剤と去痰薬で一律に治療しますが、漢方ではその咳はどのような背景で起こってきたかを診断して治療しますから、多様な咳の薬があります。わが漢方の師匠は、咳の声を聞いただけで、これはどのタイプの咳かを判断していました。咳にも個性があると言うと変ですが、東洋医学は多様性と全体性を大切にしているのが特徴です。

つまり現代医学とは異なった見方で、病気を診断し治療をしているのです。

